

ミクロ・マクロな視点から考える国際保健 ～ニュージーランド～

2024環境生命科学専修3年 清水悠華

研修の目的・企画のプロセス

目的1:赤痢アメーバをはじめとした寄生虫に関する最新の研究を学ぶ

生物医化学教室の野崎先生からニュージーランドで開催される寄生虫に関する学会をご紹介いただき、International Conference on Anaerobic Protists (ICAP) に参加した。

目的2:マオリの歴史文化と医療システム、福祉の公平性、マオリ独自の治療法について理解を深める

専任教員の泉先生や卒業生の先輩方の協力していただきマオリを中心としたニュージーランドの歴史や医療について学べる施設を探した。また、移動のしやすさも考慮した。

・オークランド戦争記念博物館→学会の会場に近く、文化や歴史を詳しく学べると考えた。

・Rauawaawa Kaumātua Charitable Trust (マオリの高齢者向け施設)→伝統的な治療法であるミリミリと現代医学がニュージーランドでどのように認識され、活用されているかを実際に見学できると考えた。また、学会会場から移動のしやすいハミルトンにある。

アポイントメントについて(Rauawaawa Kaumātua Charitable Trust)

迅速かつ温かく対応していただき、快く受け入れてくださった。また、Kotahitanga というイベントへの参加も勧めていただいた。

学会

ジアルジア、赤痢アメーバ、マラリア、トリコモナスに関する発表を聞いた。寄生虫の感染機構や免疫回避のメカニズムについて新たな視点を得ることができ、大変有意義な学びとなった。世界の研究者と多様な視点や最新の研究について深く意見を交わすことができ、目標が明確になった。



Rauawaawa Kaumātua Charitable Trust

MiriMiriセラピーという伝統医療は、マオリの伝承的知識と科学的知識(現代医学)の両方を大切にしているものだった。

施設では、子どもから高齢者まで誰でも使いやすいクッキーカッターを制作していた。また、人種関係なく楽しんで体づくりができるプログラムを行っていた。医療に関しては、西洋医学が主流だが、一部はマオリ伝統の医療も行われているという。



オークランド戦争記念博物館

戦争の展示では、「誰が悪いのか」ではなく、「戦争そのものをなくしていこう」メッセージを受け取った。過去の戦争の記憶を未来に生かし、今を生きる人々が教訓として受け継いでいかなければならないと感じられた。古来のマオリの制作物は、自然の恵みを活用し、自然や先祖に敬意を表したものが多い。また、自然に触れられる展示が多かった。文化や歴史、自然を守る意識が根付いていると考えた。



Let these panels never be filled

スケジュール

2024.8.24

出発時刻 19:45

<出発> 東京/成田空港

到着時刻 09:15

<到着> オークランド/オークランド空港

午後

オークランド戦争記念博物館

2024.8.25

午後

ICAP2024(オークランド大学)

2024.8.27

ICAP2025(オークランド大学)

2024.8.28

ICAP2025(オークランド大学)

2024.8.29

ICAP2025(オークランド大学)

2024.8.30

11:00~14:00

Rauawaawa kaumatua charitable trust

2024.8.31

出発時刻 10:05

<出発> オークランド/オークランド空港

到着時刻 18:05

<到着> 東京/成田空港

海外研修のススメ・後輩へアドバイス

海外研修は、自分の世界を広げる絶好のチャンス！何でも挑戦・なんでも聞いてみるのが大切です。失敗も無知も恥ずかしいことではなく、むしろ知らないからこそ学ぶことがたくさんあります。また、本や記事で読んだ情報はあくまで一部に過ぎず、現地で得られる経験にはかないません。自分の目で見て、実際に感じることで深い学びにつながります。

ぜひ海外へ飛び出し、自分自身で学び、感じてください！